

テーマ 4-1

生活環境の状態と主観的幸福感との関係性を明らかに

—気候変動による生活の質への影響の評価に向けて—

白井浩介（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程）

栗栖 聖（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授）

福土謙介（東京大学未来ビジョン研究センター教授）

研究のポイント

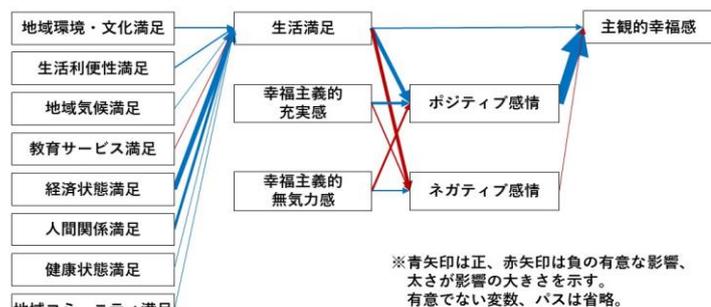
- ▶ 日本全国を対象にアンケート調査を実施し、経済状態等の個人的な状況に左右されるものの、地域の環境・文化や気候に対する満足度が高いほど、生活満足度が高まることを明らかにしました。
- ▶ 平均気温の低い地域は気候への満足度が低いなど、地域の生活環境の状態により主観的な満足度が有意に異なることを示しました。
- ▶ 気候変動によって生活環境の変化が予想されます。本研究結果は地域の適応計画の策定等において、生活満足度などの住民の主観的な側面への検討に資することが期待されます。

【研究の背景】

近年、生活の質（QOL）に対する注目が高まっており、IPCC 第6次評価報告書においても気候変動による Well-Being への影響が取りまとめられています。国内でも気候変動と QOL の関係についての研究は一部行われているものの、特に主観的な側面に対する検討は未だ十分に進んでいません。そこで本研究では、気候変動による QOL への影響を評価するための基礎的な検討として、主観的な満足度などの関係性を明らかにすることを目的としました。

【研究内容】

日本全国を対象にアンケート調査を実施し、主観的な幸福感に関する心理モデル解析および各種満足度等の地域別の分析を行いました。生活満足度に対して、経済状態や人間関係といった個人の状態への満足度による影響が大きい中、地域の環境・文化や生活利便性、気候といった生活環境の状態への満足度による有意な影響も示されました。また、平均気温の低い地域は気候への満足度が低いなど、地域の状態により主観的な満足度も有意に異なりました。気候変動による生活環境の状態の変化が主観的な QOL に影響を与えることが示唆されます。



【今後の展望】

気候変動による客観的な生活環境の状態の変化を推定し、本研究で明らかにした主観的な QOL の構造と組み合わせることで、気候変動による QOL への影響の定量的な評価を進めていきます。

【出典】

白井浩介, 栗栖聖, 福土謙介: 将来的な気候変動影響の予測に向けた地域の生活環境の状態への満足度と主観的幸福感との関連性評価, 土木学会論文集 G (環境), 採択済。